

県下の交通事故 (12月4日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
55年	3,550件	120人	4,622人
54年	2,463件	89人	4,612人
比較	+2.5%	+34.8%	+0.2%



◇ 第 50 号 ◇

発行所

甲府市丸の内一丁目6-1
財団法人山梨県交通安全協会
TEL 甲府 (0552) 37-7827

無事故で明るい新年を

年末年始の交通安全運動



年末年始は無謀運転に伴う交通事故の多発が予想される

県民総ぐるみで事故防止

12月10日から1月10日まで

年末年始は、とくに交通量の増加、飲酒の機会が多いことから、交通事故の多発が予想されます。この時期に当たり、激増を続ける交通事故抑止のため、十二月二十日から一月十日まで「年末年始の交通安全県民運動」が実施されます。

最近県下の交通事故は、異常に増加し、非常事態宣言が出されています。もうこれ以上の死者を出さないよう、県民総ぐるみでこの運動に協力し、交通事故の激増を止めよう。

な運動を推進するとともに、家庭・運転者、歩行者はとくに次のこと守りましょう。

飲酒運転 しない させないわが家でも

運動の目的

この運動は、年々増加する交通事故の抑制、飲酒の機会が多くなるなど、無謀運転に伴う交通事故の多発が予想されます。従って、県民一人ひとりが、正しい交通マナーの実践を習慣づけ、交通安全を未然に防止することを目的とします。

●運動の重点

①ことごと老人の交通事故防止

②飲酒運転の絶対的、夜間における交通事故防止

③安全運転の確保と、シートベルト・ヘルメット着用の促進

●推進事項

関係機関・団体は、地域・職域の実情に応じた効果的

●安全能力と安全能力

自分や他人の安全を守る能力を、私達は「安全能力」と呼びたいと思います。潜在危険という言葉は最近、ある程度普及した感じがします。安全能力という言葉はまだ耳新しい言葉かと思えますが、自分や他人を事故から守る能力のことです。安全能力にはどんなものがあるか、次の四つをあげたいと考えています。



家庭における交通安全(2)

東京大学教養学部教授 大場 義夫

●安全能力と安全能力

自分や他人の安全を守る能力を、私達は「安全能力」と呼びたいと思います。潜在危険という言葉は最近、ある程度普及した感じがします。安全能力という言葉はまだ耳新しい言葉かと思えますが、自分や他人を事故から守る能力のことです。安全能力にはどんなものがあるか、次の四つをあげたいと考えています。

一つは、潜在危険の早期発見、早期除去の能力です。しかし取り除けない場合は、それを回避する能力です。例えば、学校の前の道路に最近車が多くなってきたり、この道を横断させるのに非常に危険を感じるようになったというように、潜在危険を察見したことになります。そこで、当局に頼んで早く学校の前に信号機や歩道橋を設けてほしいと頼む。しか

り、眠いようなときは、本来なら運転すべきではないのですが、どうしても運転しなければならぬ場合は、ラッシュ時を避けて車の通行が少なくなったところに出かけるとか、回り道をしても車の少ない道を通るようにすることです。

三番目は、不幸にして事故になる場合は、被害に至らしめない能力です。自動車が衝突しても、車はこわ

れるかもしれないが、自分ケガをしないで済ませる能力のことです。シートベルトの着用がこれにあたります。

四番目は、被害を生じぬ場合、それを最少数限に食い止める能力です。不幸にしてケガをしても、応急処置の方法をマスターしていれば、そこで適切な措置をとれるということです。

二つ目は、身体・運動的要素です。運動能力が優れているならば、安全能力にプラスになります。

三つ目は、情緒・性格的要素です。あわて者だとか、せっかち、気まぐれ、情緒不安定な人、あるいはすぐカッとする、興奮するといった人も事故に遭いやすいのです。

はじめの知能・知識的要素は、簡単に言えば「頭の要素」といいます。二番目の身体・運動的要素は「体」の要素になります。三番目の情緒・性格的要素は「心」の要素になるわけ

●事故予測能力を養うこと

安全能力の一番目と二番目は、事故を未然に防ぐ能力のことです。二つの「事故予測能力」といっていいのです。三番目と四番目は事故が起きてから対処する能力です。事故対処能力「といえるかもしれません。さて、こういった安全能力

車できた各には酒を飲ませないようにしましょう。家庭で話し合いを

家庭で、母親が中心とな

って、交通安全の話し合い

をしましょう。

今日も一日、交通事故にあわないよう、家族みんな

で気を付けましょう。

夜間道路を歩くときは、

明るい服装で、反射材か懐

中電灯をもって歩きましょう。

●安全能力は全人教育

結局、安全能力というのは、頭、体、心と、人間すべてに關係してくるわけであ

ります。この安全能力を養う

のが安全教育です。安全

教育というのは人間すべて

に關係する教育でありま

す。すなわち全人教育であ

る言えます。決して交通

のルールだけを教えるのが

交通安全教育ではありません。

スポーツをして体力や運

動能力を養う、せいかちや

カッとする性質を直す、順

番を靜かに守る性質をつ

けていく、あるいは反社会

的・反道徳的なことをしや

すいような性格を直してい

くことも、やはり広く、交通

安全教育になるわけです。

交通安全教育は全人教育である

ということを十分記憶いた

たいて、今後の安全教育

をすすめてほしいと思いま

す。(第二十回交通安全全国民

運動中央大会講演要旨「人

と心を引き締めて山梨の

悪い交通土壌は早く改善し

たいものである。



「飲んだら乗らない、乗らなければ飲まない、飲まないなら飲まない、飲ませない」を守りましょう。

忘年会、新年会など飲酒の会合には、車で出かけるないようにしましょう。

親は必ず幼児の手をつなぎ、車線側を歩きましょう。

交通安全マナーを高めよう

ことしの県内の交通事故者は激増し、増加率は全国ワースト第一位の不名誉な記録である。無謀運転など、交通安全マナーを高める県民運動を実施中である。

▼どうしてこんなに死亡事故が頻発するのか、やはり交通安全マナーを守らないからである。本県には、交通の面でいわゆる「山梨方式」という悪い土壌があるといわれている。▼かつては酒よく運べるが、全国的に第一位という時代があった。いまでも、飲酒運転による事故は絶えない。みづから飲酒は悪いが、捕まると飲酒が悪いなんて思う考えが潜んでいるのではないだろうか。

▼シートベルトの着用率にしても、本県は低い。低い、交差点での右折優先的など、交差点での右折優先的など、交差点での右折優先的など、交差点での右折優先的



第22回県下中学生交通安全弁論大会

優勝は梅沢小百合さん
地区代表18人が熱弁

県下中学生交通安全弁論大会



選手は交通問題を真剣に訴え熱弁をふるった

県交通安全協会、NHK甲府放送局、交通山梨新聞社主催の、第二十二回県下中学生交通安全弁論大会が参加し、日ごろ考えてい

る交通問題を七分の持ち時間で発表しました。審査の結果、優勝は「明日はわが身のこととして」と題して「毎日どこかで起きている交通事故を他人ごととらえず、ルールを守って、かけがえのない、たった一つの命を大切にしよう」と訴えた甲府市立北東三年の梅沢小百合さんに決まり、優勝旗と知事賞を授けられました。

【優勝】知事賞 梅沢小百合(甲府北東) 【準優勝】県議長賞 萩原哲也(松里) 県警本部長賞 大庭みち代(平和) 県教育長賞 石川緑子(若草) 【優秀賞】甲府市長賞 宮田京子(城南) 以下出場順 板野政子(一宮) 数野美緒(甲府北東) 小林あき子(三珠) 小野みどり(竜王) 安藤よしみ(猿橋) 内藤由理(垂崎) 雨宮博(山梨北)

秋の全国交通安全運動中の十月二十五日、県内で人身事故の発生がゼロという珍しいことがありました。県警は十一年前から、県内十五署の報告に基づき、毎日「交通事故発生状況」をまとめていますが、「件数、死者、傷者」ともゼロが三つそろったのははじめてだといわれています。

去る七月十七日の深夜、梨大生A君(二十歳)は、乗用車の助手席に同級生B君(二十歳)を乗せ、南巨摩郡早川町奈良田地内の県道を運転中前方不注意で、



シートベルトで無傷!! 三十メートルの崖下に転落

速度の出すぎによりカーブを曲がりきれず、三十メートルの崖下に転落という、絶対に減少しません。交通事故の後遺症と戦いながら、機能回復訓練にとりくむ人びと、働く両親を失った交通遺児、交通事故で愛児をなくした母親の悲しみ、莫大な賠償金に苦しむ事故被害者、交通事故をつけるニュースのひとつひとつに、多くの人がびと悲しみを覚えること、決して忘れてはなりません。交通事故ゼロへの悲願もむなしく、今日も日本のどこかで、いえ、私達の近くで、悲しい事故が連続し、犠牲者が苦しんでいます。この世に、たった一つしかない私、一つしかないあなたの命、交通事故によって、このかけがえのない命のともじり、消えさることのないように。交通事故、明日はわが身のこととして。

氏の多年にわたる功績を称えて、十二月一日、特別感謝状が贈られました。 長坂交通安全協会(堀内益信会長)は、管内の長坂、白州、小淵沢、高根、武川、大泉の六町村教育委員会に対し「自転車安全教育用に使ってください」と、ことも用自転車十六台をプレゼントしました。

明日はわが身のこととして

北東中三年 梅沢小百合



「七十一秒に一人のけが者、六十四分に一人の死者」これが日本の交通事故の実態です。現代の日本は、産業、経済、文化、科学など、あらゆる方面にすばらしい進歩をとげ、世界の大国になりました。もちろん、容易な道のでなかつたことは、繁栄の中で、かすかすの社会問題が多発していることが物語っています。

貿易や外交問題、エネルギー確保や防衛問題、これらさまざまな問題を、そして日本の将来を、私達は中学生なりに真剣に考えています。

「二度と戦争は繰り返すまい、平和な日本、平和な社会をめざして。」 しかし、そんな願いとは裏腹に、交通事故という、愚かで終わらななき交通戦争はくりかえされていきます。秋の交通安全運動期間中に、昨年一年間の死者九十六人をオーバーし、現在百人の大会をこえるという現実をどう受けとめたいのでしょうか。もちろん車と

共存する社会から、現代人は逃げることはできません。人類の夢は、性能のよい車の大衆化によって、より速く、より便利さを追求することなのでしょう。私は、県警交通安全課でいただいた資料を分析して、考えさせられました。五十五年上半年、全国の交通事故数は、二十二万三千

百三十二件、一日に千二百二十件の事故が発生しています。本県では、千八百八十八件、一日十件の発生率です。交通事故者は全国で四千人、本県では百五十名、一日に一人の割合で、尊い命がうばわれています。これは、前年比で、四八・三%の増加率で、二位の島根県を一〇%も引きはなして、全国ワースト一位という最悪の事態

も、シートベルト着用のおかげはさかんに行われ、秋の交通安全運動の重点目標のひとつです。しかし、県警四月の調査では、着用率七・四%と低く、十四人に一人の割合しか着用されていません。八月二十六日の夜中、市内徳行町でおきた女性による死亡事故は、初心者でシートベルトもしない、酒よ酔い運転で鉄柱に激突とい

者とも全くけがもなく、助かったのです。シートベルトをしめているドライバーの顔には、運転に対する真剣なまなざしがあります。警察や、安全協会の呼びかけにもかかわらず、シートベルトは「面倒くさい」とか「初心者みたいで格好が悪い」などと、かけがえのない命を軽視する大人を許すことができません。

42年前の表彰状

須玉町の植松さん



42年前の表彰状と植松佐吉氏

この表彰状は、今から四十二年前の昭和十三年に、当時須玉町(現須玉町)の植松佐吉氏の植松山梨交通協会会長で、時の山梨交通協会会長であった桃井直美警察部長から、交通功労者として贈られたものです。山梨交通安全協会(現県交通安全協会の前身)は、大正十二年四月一日に設立された。会長は警察部長(のちに知事)でした。昭和八年六月警察署単位に支部を設け、全県組織が確立されましたが、植松さんは、そのころ運送業を営んでいた関係から、支部の役員となり、すでに五十年の安

山梨県交通安全協会会員のための災害共済のお奨め
万人は一人のために 一人は万人のために
※ 保険会社の職員が内容説明に伺います
提供団体 山梨県交通安全協会
引受会社 協栄生命
甲府市丸の内三丁目20-3
TEL 0552 (22) 4836(代)

昭和五十六年使用の「交通安全年間スローガン」が決まりました。三部門の最優秀作品(2面掲載)と佳作は、次のとおりです。このスローガンを行動に移し、交通安全運動を大きく前進させたいものです。

佳作 (全日本交通安全協会会長賞)

- 運転者向け
 - あなたから 見えない死角に 小さな子
 - 運転は いつもわが子を 乗せた気で
 - かわいい目 あなたを信じて わたつて
 - きつぱりと 飲んだら乗らぬ 強い意志
 - さわやかな マナーが光る ゆずりあい
 - 事故ゼロで ひろがる人の輪 ころの輪
 - スピードに 酔うな慣れるな おほれるな
 - ベルト締め ゆとり・ゆっくりに ゆずりあい
 - 暴走は 他人の迷惑 身の破滅
 - ゆずりあり 心のゆとりと 思いやり
- 歩行者・自転車向け
 - 安全は 歩くあなたも 守る義務
 - 安全は たった一步の 注意から
 - あぶなかつたも 事故のうち

昭和56年交通安全年間スローガン

- 子に教え 親が守って 交通安全
- さあ青だ まてまで左右を 見るゆとり
- しかるより あなたが手本の よい横断
- しっかりと握る 母の手 子の命
- 飛びだすな 車が待ってる 曲りかど
- ママの手は かわいいほうやの 命綱
- 渡る前 つなぐその手が 子を守る

○ こども向け

- おうだんほどり よそみ おしゃべり じこのもと
- 大きい大きいダンブさん わたしもとおるこの道路
- きをつけよう あのみち あのかど あのくるま
- きをつけよう あそんだあとの 掃り道
- きをつけて ここは子供の 通学路
- ダンブのおじさんお願いよ
- とび出すな 青でも 心に赤信号
- 二人乗り 自転車ふらふら 事故のもと
- 目で一かい 心で一かい 右左
- 弱虫 なき虫 信号むし
- ぼくらはみんな きらいだよ

交通死者100人突破 非常事態を宣言



「県民こそって交通マナーを高めよう」とチラシ6万枚を配った

県内のことしの交通事故死者は、県民の願いもむなししく、ついに百人の大台を突破し、さらに激増を続けている。事態を重視した県と県警は、十月十一日異例の「非常事態宣言」を行い、死亡事故抑止の県民運動を展開し、とくに原因の

多くを占めている無謀運転の禁止と、交通マナーを高めるよう強く訴えている。県内では、昨年、二十年ぶりに交通事故死者を二ケタ台の九十六人に抑えましたが、ことし三月から再び死亡事故が目立ち、五月か

ワースト全国一の汚名返上へ

を打ち出しました。80万県民こそって交通マナーを高めよう

の原因は、スピードの出し過ぎ、わき見やいねむり運転、飲酒運転など基本的なルールやマナーを守らないケースが多い。交通マナーを高める県民運動を展開して、事故防止を図る」との決意を述べ、死亡事故にストップをかけるための対策

二輪車の昼間点灯を

石和交通安全協会会長 雨宮崇敬



私は、遠くに行くときは、四輪車を使いますが、近いときには二輪車を使っています。四輪車のとき、二輪車の昼間点灯走行を見ると、確かによく目立ちます。今までと違って二輪車の位置が確認できます。「なるほど、気付かれることが安全とこれだ」という実感です。

それ以来、私は、二輪車のときは昼間点灯をして、なるべく四輪ドライバーに目立つように、自分の存在位置を知らせようとしています。「安全とは目立つことだ」といいますが、確かに事故防止には最良の方法で、とくに交差点や交通量の多い道路での効果はテキメンだと思います。

交通事故の中で、二輪車の事故が占める割合はかたや高く、三三%と高いです。また、死者の四分の一は二輪車の関係する事故といえます。その最大の理由は「相手からの視認性の低さ」といわれています。二輪車事故の防止にこの昼間点灯走行が特効薬となるかもしれません。現に交差点では、遠くからライトの確認で、右折出合い頭の衝突事故が減少しているとのことです。

二輪車の昼間点灯走行を実践しましょう。



また、県ではセスナ機を飛ばし、上空から交通安全を呼びかけるなど、空陸一体のいわゆるあの手この手の一大作戦を展開して、連日三百人の制服警官を街頭に配置し、監視と取り締まりを実施し、とくに道路交通の中心である甲府、勝沼両バイパスで、昼夜を徹して集中的にスピード違反や飲酒運転を取り締まる「バイパス作戦」を展開しました。

の大作戦を展開して、連日三百人の制服警官を街頭に配置し、監視と取り締まりを実施し、とくに道路交通の中心である甲府、勝沼両バイパスで、昼夜を徹して集中的にスピード違反や飲酒運転を取り締まる「バイパス作戦」を展開しました。

交通安全かるたを配る

県安協では、県下十五の地区安協を通じて、小学校・幼稚園・保育所に交通安全かるた二千組を配りました。これは、昨年に続いて第二回目です。幼児・児童の交通安全教育に役立てようというものです。標語はすべて「あは」「あは」「あは」というように平仮名だけを使い、絵札もなかなか楽しく描いてあります。さらに、札を使って絵合わせ遊びもできるように、チビッ子たちの人気を呼んでいます。

哀悼

県安協副会長、藤沢安協会長小林英雄殿には、十月六日逝去されました。謹しんでお悔み申しあげます。本交通安全協会会長から生前の功績により交通栄誉章緑十字章が贈られました。



第2部最優秀賞 一くず鉄同然 (県警高速隊)

第14回交通安全写真コンテスト 入賞61点を表彰

県交通安全協会主催、県警本部、山日新聞社後援の第十四回交通安全写真コンテストは、八月三十一日をもって締め切りました。応募作品は百三十三点の多きに達しました。

審査の結果、第一部の最優秀賞には甲府市朝日三丁目目小沢正司さんの作品「手をあける習慣を」が、また、第二部では、県警高速隊の「一くず鉄同然」の作品が最優秀賞に選ばれ、賞金各二万円が贈られました。なお、ことしの金賞は十四点、銀賞は五、銅賞は十一、佳作は二十八、賞金が贈呈されました。応募作品は、交通安全の

- 【最優秀賞】 高速度隊 (富士吉田署)
- 【金賞】 高速度隊、中込和夫 (富士吉田署)
- 【銀賞】 猪股治郎 (長坂署) 長坂署交通係、富士吉田署交通課
- 【銅賞】 今津信也 (日下部署) 浅川昭三 (甲府署) 高速度隊、向山直 (増穂署) 高速度隊、諏訪田博 (富士吉田署)
- 【佳作】 伊藤七六 (甲府署) 加藤光男、小松能正、今津信也、志村和 (日下部署) 高坂幸太郎 (徳形署) 高速度隊、富士吉田署交通課、田畑春樹 (甲府署) 大月交通管理隊、大柴力 (韮崎署) 風間繁樹、大窪政仁 (諏訪署) 南部警察署、佐々木昭夫、門西和雄 (富士吉田署)

○ 県下一の
広いコースで 早い上達を!

○ 伝統ある当校で
1日も早く免許証を あなたの手へ

財団法人
山梨県交通安全協会経営

公認 山梨自動車学校

八田村野牛島1828 山梨県運転免許センター内
TEL 05528-5-0752